

野研びより

昆虫編 3号
野外生物生態調査研究部 昆虫班
2015年6月



図1. ナナホシテントウ
Coccinella septempunctata
甲虫目 テントウムシ科 テントウムシ亜
科 (2015年5月加江田川で撮影)



図2. ナミテントウ *Harmonia axyridis*
甲虫目 テントウムシ科 テントウムシ亜
科 (2015年6月加江田川河川敷で撮影)

可愛らしい外見のテントウムシ。世界では約 5000 種が知られており、日本では 180 種が確認されている。写真のナナホシテントウおよびナミテントウは、テントウムシ科の中で最も広く分布しており、宮崎大学でもよく見られる。誰もが一度は目にしたことがあるのではないだろうか。その愛らしくも派手な外見は生物学的に警戒色とされており、触ると脚の関節から臭い黄色い汁を出して身を守る。二種共に、かわいいイメージとは裏腹に肉食性であり、幼虫・成虫いずれも農業害虫であるアブラムシを食す益虫である（草食性の害虫のテントウムシもいる）。このため生物農薬として使われることもあり、名古屋大学のように野外への拡散を防ぐため飛べないテントウムシを人工的に作り出しているところもある^{1) 2)}。また、千葉県立成田西陵高等学校では、接着剤により背中中の羽を接着して飛べなくする方法を用い、テントウムシを生物農薬として使用している。接着剤は簡単に剥がすことができ、また周辺に生息する個体を使用することから、生態への影響は少ないと考えられている。ただし、テントウムシはもともとアブラムシを検知する能力が低く、アブラムシを発見することができずに死んでしまうこともある。ただでさえアブラムシにたどり着くのに苦労しているのに、飛べず移動性の低下したテントウムシにとって、アブラムシまでの到達は尚更むずかしく、飛べないテントウムシはあまり実用化に至っていないようである。

参考文献

- 1) 朝日新聞 <http://www.asahi.com/eco/NGY200907210007.html>
- 2) テントウムシ-Wikipedia <https://ja.wikipedia.org/wiki/%E3%83%86%E3%83%B3%E3%83%88%E3%82%A6%E3%83%A0%E3%82%B7>